

第36号
平成23年
11月



もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試して下さい。

山田整骨院
熊本市出水4-25-1
096-364-7611
<http://yamadasu.com/>
E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp

戦時中の西医学の実績（その三ー2）

軍隊における健康管理の体験集 福永康夫
昭和31年2月17日 プリント

大東亜戦争、連隊長時代

- 一、マラリア対策（昭和17年ー昭和22年）ほとんどの将兵がマラリアにかかり、戦力を消耗した。私は肝臓の機能の完全がマラリアに対すると考え、朝、夕確実に三カ月間の裸療法を実行した。この故か南方六年間臥床した事もない。
- 二、栄養失調患者に生食
連隊長就任直後（在ホーゲンビル島）栄養失調患者の唯死を待つ状態であった。軍医も医薬による手を打つ術もないことを見て高砂義勇隊（台湾生蛮）員は裸足でジャングル中の生野草を食しているので一名も栄養失調者がいないことを知り、生食に限ると考え、軍医を各地から集めて、生食の作り方の講習と研究を行い、栄養失調者に応用することにした。野菜の葉をすりつぶし、ガーゼでしぼりレモン汁等を出し入れて味をつけた。一カ月半目に連隊移動に際し重症の栄養失調患者が軽武装して同行するに至った。
- 三、1、600カロリの給食
敗戦后收容せられ将兵とも一日現品1,600カロリーしか支給しない。ジャングル内で野菜を作ることも十分でなく、将兵は毎月1キロづつ体重は減じていった。私は他と同様1,600カロリー分の現品を受けたが、朝食しないので一食分が剩ってそれを貯えておいて、他の来客のあったときのサービス用に充てた。そして私の体重はいつも変化なく減じなかった。しかも毎日他より一時間程早く起きて露営地を隅なく巡り、夜は十二時過ぎまで、ヤシ油の燈下で読書か書きもの等をしていた。

結言

以上は体験の一端であるが、私自身は昭和三年以来、平床、硬枕、二食、金魚、毛

管運動、合掌合蹠等を始め、生水、塩、ビタミン、この補給の励行等の実行に努めると共に、軍隊生活において、将兵の理解を深めると共に、平戦同時その日常生活に不完全ながら実行せしめたので、その実施は徹底的でなかったが少なくとも幹部を信頼し、明朗にして心身共に強健な柔軟性のある部隊を作ることができた一例であって、この教育指導を受けたものが再び支那事変以后応召して、赤柴部隊等に従軍し盲貫銃剣等で負傷したとき、早速患部を上挙げて毛管運動を行ったため止血弾が出て治癒したので、隊長が全隊に普及を命ぜられたと通信して来たこともあり、大火傷したが、毛管運動によって跡かたもなく治ったというものもあって、人員の多数を扱うものは特に健康管理上この健康法を応用することは最も価値があることを確信する次第である。

解 説

第35号にひき続き福永康夫氏のレポートを掲載しました。率直な感想として、こんな立派な連隊長に率いられた兵隊さんは幸福だったと思います。又、西勝造先生は、西医学で苛酷な軍隊生活を克服した報告を読まれて大変喜ばれたと思います。

○マラリア対策…肝機能の完全化…裸療法

肝臓にはたくさんの機能があり、どれも大切ですが、特にここでは次のことを説明します1. 胆汁の分泌…消化を正常にします。もし分泌不十分になると消化不良、便秘となり、人体に非常に有害です。2. 解毒器官…毒素を分解、破壊、毒性を消失させます。つまり肝臓が正常でないと毒素で人体はダメージを受け体力が弱まるということです。裸療法は裸になったり、衣服や毛布で体を被ったりする方法です。皮膚の機能を活性化し、皮膚からの毒素の排出、体液の酸塩基の平衡を行います。又、体を冷やしたり温めたりすることで、自律神経の交感神経や副交感神経を刺激して、自律神経を整える効果を発揮します。つまり、それらの事が肝臓の働きを助けることになり、肝機能の完全化となり、マラリアの毒にも抵抗できる力をつけることになるということです。

○栄養失調の生食……もう一つの道第19号と第32号にも記載していますが、野菜、野草、木の葉をすりつぶして食べる食事療法の最終兵器です。高砂義勇隊や栄養失調の具体的な報告がありその効果が証明されて嬉しい限りです。

○二食……朝食抜きの昼、夕二食ということです。西医学では排泄を妨げる朝食は有害という理論です。二食で消化、吸収、排泄が十分に行われるので、少ない栄養、カロリーでいいという立場です。

○毛管運動……10号、30号、33号にも詳述しています。ここでは銃弾が出て治ったこと、火傷が治ったことが記述されています。用具不要で緊急にすばらしい結果を出す、こんな方法を使わない手はありません。